

平成26年 年頭所感



東京都正札シール印刷協同組合
青年部部長 竹岡 慎一

新年明けましておめでとうございます。平素より当青年部の活動に多大なご理解とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

2013年の正札青年部の活動を振り返り、漢字一文字で表すと「個」であったように感じます。

その理由に毎月行っている例会の中での勉強会で、後継者育成プログラム「一人歩きする必殺営業ツール」を作成するワークショップを開催しました。そのツールとは自らを知る事で、戦略的にコミュニケーションを取るというものです。自分がいる会社とはどのような会社なのか、自分とはどのような人間なのかを深く考えました。そこから自らを追求する事の大事さを知りました。また青年部の一部のメンバーが役員として参加している印青連の事業で「夢」をテーマにしたイベントがありました。10年後に明確なゴールを定め、力強くあゆむ。一人の社会人として、経営者として、親として10年後にどうなっていきたいかを深く考えました。描いた10年後を逆算し夢を掴むために本年はより「行動」のこの1年間にして参ります。

それでは2014年はどのような漢字を目標に活動していくか。それは「共」という漢字です。2020年に東京オリンピックの開催が決まった昨年、印刷業に携わる私たちにとっても明るいニュースだったのは言うまでもありません。6年後に何十万人にもなる海外の方を迎え入れていく為に私たちは、シール業界として何が出来るのかを青年部でも議論をしております。「MUD（メディアユニバーサルデザイン）」や、まずは英語力をつけるべし、などの意見もありますが、1つの共通意見として「他業界とのコラボ商品の開発」があります。シールの技術とシール印刷ではない印刷・加工との連携はもちろん印刷以外の業界とのコラボを考えております。シールラベルの可能性は私たちの様な中にいる人間からではなく、意外と他の業界の方々の方が感じているように思います。そんな共同開発をする1年。そしてどこまでいっても正札青年部は共に成長していきたいという思いで「共」という漢字に決めさせて頂きました。

今年1年皆様には何かとお世話になりますが、どうぞ宜しくお願い致します。